

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION


第10回日本難病医療ネットワーク学会

# “地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし” カリキュラム化プロジェクト カリキュラム受講後アンケートから見えてきたこと

---

NPO法人境を越えて 千葉早耶香

共同演者：本間里美,岡部宏生,江口健司,川村由里,長田直也,小田瞳,櫻井こずえ,向山夏奈

 SAKAI WO KOETE  
境を越えて

# 日本難病医療ネットワーク学会COI開示

筆頭発表者名：千葉早耶香

演題発表に関連し、発表者全員について開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

# 背景

地域包括ケアシステム構築の実現に向けては、介護と医療の連携構築、在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材育成が急務の課題



介護の専門性への理解不足

医療と介護の連携は  
障がいの重症度が増すごとに  
稀薄になる

当事者が自分らしく地域で  
暮らし続けることが難しい



在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成を目的に  
カリキュラムプロジェクトを立ち上げた

# カリキュラム化プロジェクトについて

---

目的：在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成

目標：“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラムが保健・医療・福祉系教育課程に導入されること

概要：

- 重度の身体障がいを持ちながら地域で生活を送る当事者の生活を主軸に座学講義と見学体験を行う。
- 学生は講義を通して制度や疾患,多職種連携の実際を学ぶ。
- 見学体験やディスカッションを通じて障がいの社会モデルという観点を知り,障がいへの視点を探求する。

# 2021年度カリキュラム実施状況

---

- **A大学 看護学科1年生 20名**  
2021年8月16-24日の5日間（うち座学3日,体験2日）
- **B専門学校 理学療法,作業療法学科2年生 7名**  
2021年9月21-24日の4日間（うち座学3日,体験1日）
- **C大学 看護,理学療法,作業療法,言語聴覚学科1～3年生 19名**  
2022年3月28-4月1日の5日間（うち座学4日,体験1日）

# 2021年度カリキュラム実施後評価

---

- **2021年にモデルカリキュラムを3校で実施**

満足度（5択）：大変満足（A大学94.7%、B専門学校100%、C大学100%）

「介護と医療の連携を実体験」

「当事者と介助者の関係性構築を理解」

「障がい観を個人モデルから社会モデルへと変化」

参考）～地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らしカリキュラム化プロジェクト第2報～

カリキュラムは学生が当事者の生活を通して新たな知識を得て理解を深めるのに一定の効果があった。



アンケートは講義直後のものであり、短期的な評価に留まっている

# 目的

---

カリキュラム受講5-10ヶ月後の参加者の思考や行動変化の有無,内容を調査し,本カリキュラムが学生に与える影響を長期的視点で明示すること.

# 方法

---

- 対象：2021年度カリキュラム受講生46名
- 実施時期:A大学:受講から10カ月後  
B専門学校：受講から8か月後  
C大学：受講から5か月後
- 調査方法: (googleフォームにて作成した) アンケートにより調査を実施した。  
アンケートは各大学・専門学校教員を通して受講生にメール送付した。



# アンケート項目

---

1. カリキュラムで学んだことの中で今でも印象に残っていることはありますか  
印象に残っていることがある方は具体的に教えてください
2. カリキュラムを受けたことでその後の学生生活に影響はありましたか  
学生生活に影響があった方はその具体例を教えてください
3. 講義を受けてあなたの普段の行動に変化はありましたか  
行動に変化があった方はその具体例を教えてください
4. その他にご意見,ご感想のある方はこちらへ記載してください

# アンケート結果

---

**回答率 50%(23/46名)**

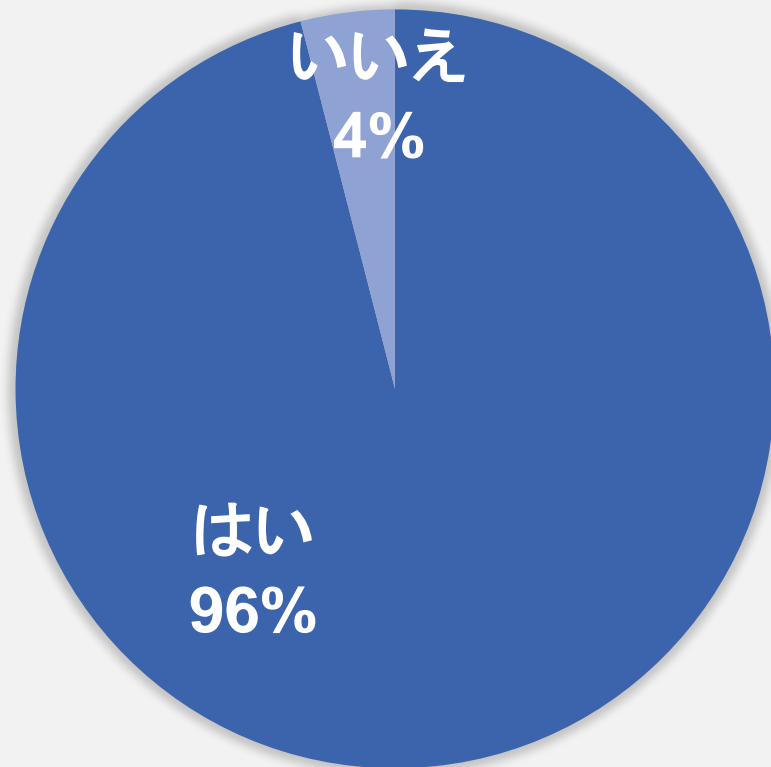
## 内訳

- A 大学75% (15/20名)
- B 専門学校0% (0/7名)
- C 大学42% (8/19名)

# 1. 印象に残っていること

---

1.カリキュラムで学んだことの中で今でも印象に残っていることはありますか



印象に残っていることがある方は具体的に教えてください  
(記述の多い順に記載)

- 1) 障がいの捉え方,社会モデル
- 2) 見学体験で見た当事者の生活
- 3) 障がい者も自分と変わらないということ
- 4) 講義で見た医療ケア
- 5) 映画の内容
- 6) 当事者の言葉

# 1. 印象に残っていること

---

## 1) 障がいの捉え方,社会モデル (回答より抜粋)

障害は人ではなく,物にあるということ.カリキュラムを受ける前は,障害は人があると全く疑問にすら思わなかったが,話を聞き,障害について学び,当事者の方の生活を見学することで,障害の本質を捉えることが少しできたと思う.物に着目した障害のあり方や,地域で生活をするためにどんな障害があり,それに対して私たちに何ができるのかを考える良い機会だった.

障害者と健常者の間にある壁を作っているのは偏見だけで障害者を判断している健常者であるということ.

# 1. 印象に残っていること

---

## 2) 見学体験で見た当事者の生活

みなさんの生活のこと.実際に重度障がい者の家に行って,介助できたのはなかなかできない経験だったのですごい印象に残りました.

障害者も住み慣れた地域で私たちと何ら変わらない生活を送っていること.

最初はどう接したらいいのか分からずあたふたしていましたが,実際は私たちが日常生活の中でできるようなちょっとした気遣いや配慮をすること,実際にどんなことお手伝いすると相手の方がスムーズに動作を行うことができるか聞くこと,大まかにはこれだけで私たちと同じだということ学びました.

# 1. 印象に残っていること

---

## 3) 障がい者も自分と変わらないということ

障がいとは身体が少し上手く動かないだけだったり少し自由が効かないだけだったりするだけで**健常者と呼ばれる人たちとは何も、ほとんど、変わらないということが活動を通して最も印象に残りました。**

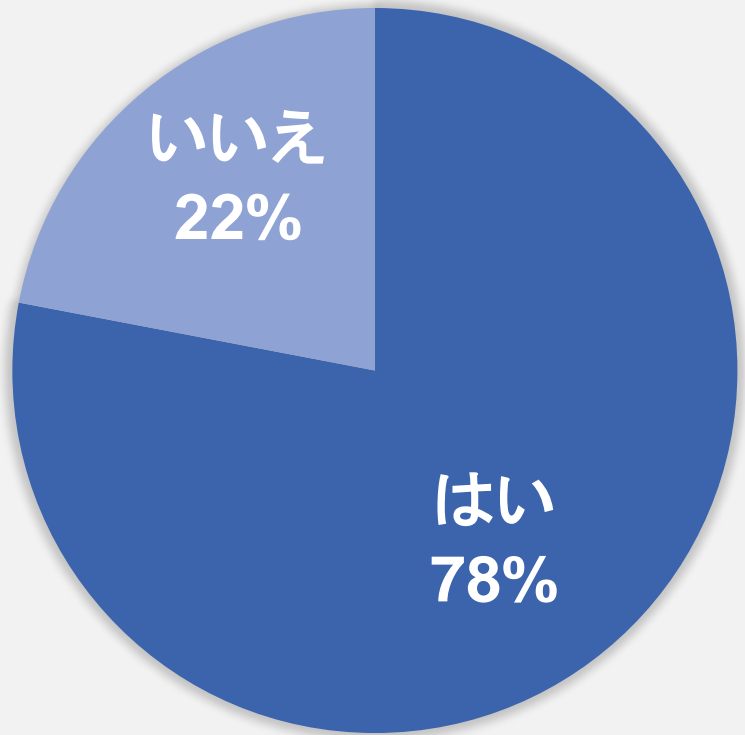
## 4) 講義で見た医療ケア,コミュニケーション

岡部さんの吸引の仕方を見たり,呼吸の介助を体験してみた事など  
言葉を発さなくてもコミュニケーションを取ることができること

## 2. 学生生活への影響

---

2.カリキュラムを受けたことでその後の学生生活に影響はありましたか



学生生活に影響があった方はその具体例を教えてください  
(記述の多い順に記載)

- 1) ヘルパーのアルバイトやボランティア
- 2) 疾患や制度の学習
- 3) 自分の考えの根拠

## 2. 学生生活への影響

---

### 2) 疾患や制度の学習意欲

実践での援助で、根拠を考える理由が分かりより充実した

制度やバリアフリーの改善点について考えるようになった。

病気についてもっと知りたいと思い、授業だけでなく自己学習をしている。

### 3) 自分の考え

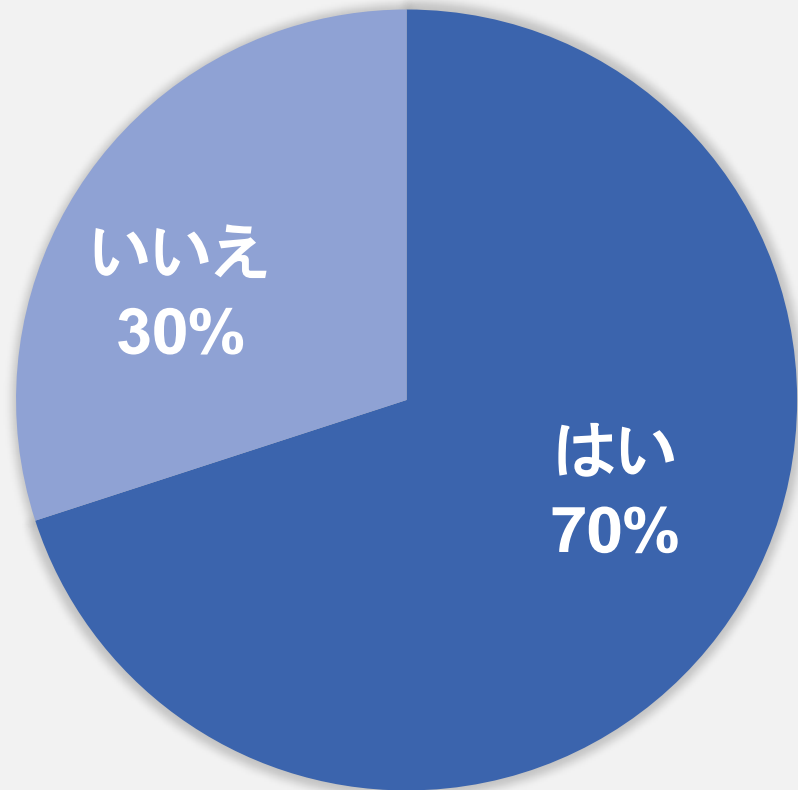
学校の授業内においてもグループディスカッションの自分の考えの根拠になったり様々な場面で役に立った。



# 3. 行動の変化

---

## 3. 講義を受けてあなたの普段の行動 に変化はありましたか



行動に変化があった方はその具体例を教えてください  
(記述の多い順に記載)

### 1) 日常生活の変化

### 2) ヘルパーのアルバイトやボランティア

# 3. 行動の変化

---

## 1) 日常生活の変化

大きな行動に移すことはできないが、例えば駅ならここにはエレベーターはどこにあるんだろう、ホームの幅は転落の恐れはないかなど**普段気にしないところに目がつくようになりました。**

**何か**に不自由している方や困っている人に積極的に声をかけるようになりました。**周囲**には子どもや車椅子に乗った方など様々な方がいるので、自分がその場から動く前に周りを見渡してから行動するようになった。車椅子や杖をついて歩いている人がいると横断歩道を渡り切れたか、段差を登り切れたか目で追うようになった。

# 活動を始めた学生たち

---

- 受講生の内,4名がヘルパーのアルバイトをしており,1年以上継続していた.
- 受講生の内,7名が不定期でのボランティアの関わりを継続していた.



参加学生の一部は重度の障がいを持つ当事者の地域生活を実際に支える活動を継続して行っていた.

# 考察

---

- ・「カリキュラムの中で印象に残っていること」で挙げられた内容は、講義直後の回答と類似しており、当カリキュラムを通して得た学びは、長期的な記憶になる学生がいることが分かった。
- ・「学生生活への影響」の回答から、本カリキュラム内容は、他の専門科目を学ぶ上での学習意欲に繋がり、より深く学ぶための動機づけに寄与していることが示唆された。
- ・「行動の変化」の回答から、障がいや社会モデルで捉えられるようになったことは、日々の生活や視点の広がりや影響を与えていると考えられる。また、実際にアルバイト、ボランティア等直接的に当事者を支援する行動に至った学生がいたことは、本カリキュラムを通して、介助者の存在の重要性が伝わったことが示唆された。
- ・本カリキュラムが知識の提供や理解を促すだけでなく、行動を変える効果があつと評価できる。

# 本調査の限界と今後の課題

---

## 【本調査の限界】

- ・ 調査時期が受講後5カ月～10か月と同時期ではなかった。
- ・ 回答率が0%の学校があり回答結果を学校間で比較することができなかった。  
一当法人と学生のやり取りに教員が介在していたことで回答が得られな可能性があるのであるのではないかと考える
- ・ 自己評価であるため、自ら気づかない行動変容は明らかにできない。

## 【今後の課題】

- ・ カリキュラム開催毎に受講後同時期に数ヶ月、年単位での調査を継続していく。
- ・ 調査方法の仕組み化

# 結論

---

- ・ 受講学生が本カリキュラムプロジェクトを通して得た知識や障がいの捉え方は、長期的にも影響を与えており、専門教育課程を学ぶ上での学習意欲の向上、視点の広がりにも寄与した。
- ・ 当事者の生活に関わる機会を継続している学生がいることは、本カリキュラムが学生の行動変容にも影響を与え、在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成の一助になることが示唆された。
- ・ 本カリキュラムの質の維持、向上のために継続して調査を行っていく。